

住吉御文庫

大阪は江戸時代（1603–1867）以来、日本の出版産業の重要な中心地だった。1723 年、大阪の出版社グループが住吉大社の境内に本の保存所を建設するための資金を出すことを決めた。彼らはこの敬虔な行為が事業の継続的な成功を確実にすることを望んだ。住吉は古くから詩歌や文学、芸能と関わりがあり、神の加護を求めるには理にかなった場所のように思われた。出版社はそれ以来、彼らの本の初版本を神社に寄贈している。

住吉大社の蔵書はおおよそ 5 万冊にまで成長したが、その一部だけがもとの倉庫の中に残っている。火災や災害などで失われた貴重な書物を、住吉御文庫が救ったケースもある。事実上、日本最古の図書館の一つであり、大阪最古の図書館である。

毎年 5 月になると、蔵書庫から蔵書をだし、蔵書の検査・虫干し行う。ボランティアがページをめくって、前年から中に潜り込んでいたかもしれない虫などを取り除く。